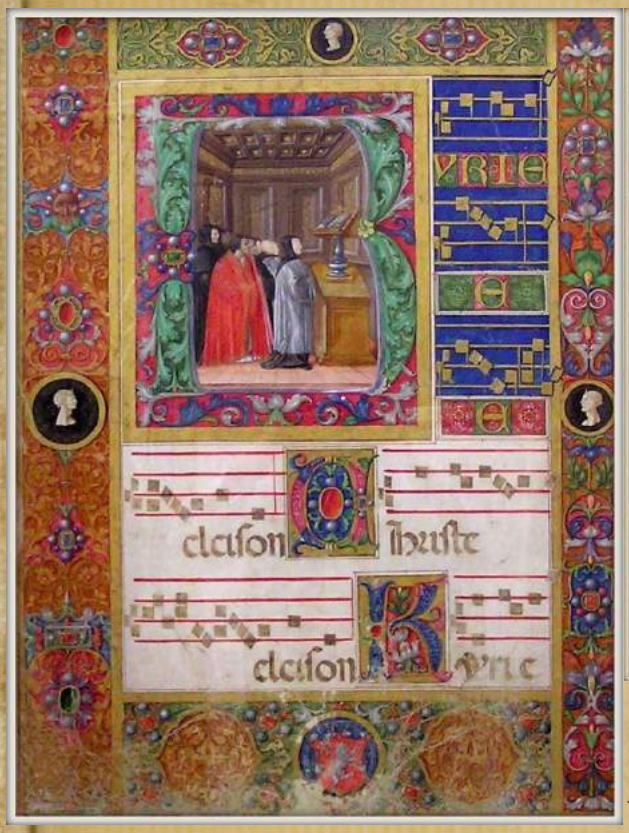
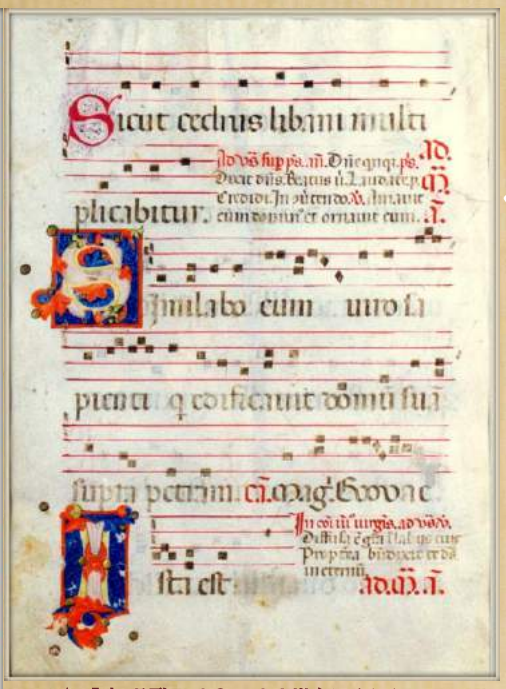
聖徳大学 収蔵名品展

中世ヨーロッパの彩飾楽譜





↑「交唱歌」13～14世紀 イタリア

←「昇階誦」15～16世紀 スペイン

ごあいさつ

聖徳学園では、教育理念の一つである本物教育を積極的に進めるため、文学、音楽、美術、工芸等に関する学術資料、文献等を日本国内はもとより世界各地から収集・保存し、展示公開してきました。このたびの展示では、これら学術資料の中から、中世ヨーロッパの手書き彩飾楽譜を紹介します。

もともと音楽は、宗教との密接な関係によって育まれてきたものです。中世ヨーロッパのキリスト教社会においては、各地で独自の典礼が行われ、それに伴って典礼音楽が発達しました。なかでも、ローマ・カトリック教会で用いられたグレゴリオ聖歌は、やがてヨーロッパ全域に広まりました。当時の典礼音楽は、詞に「ネウマ」と呼ばれる記号を付し、当初は音程を示す譜線は存在しませんでした。やがて四本の譜線を用いることが一般的となり、今日の楽譜と似た形となります。

現在伝えられている中世ヨーロッパの楽譜には、緻密で色鮮やかな装飾が施されたものが多くみられます。800年以上の歳月を経て、なお今に伝わる彩飾楽譜の美しさをご鑑賞ください。

令和元年9月17日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖　徳　大　学　長
聖徳大学短期大学部学長
学園長　川　並　弘　純

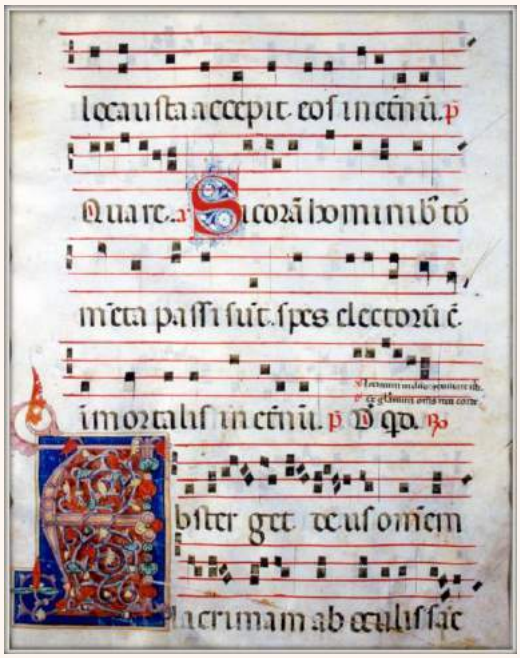
中世ヨーロッパの楽譜について

古代ギリシャ時代に登場した楽譜は、ギリシャ語の歌詞の上に音の高低を示す文字や記号を添えるという形式でした。

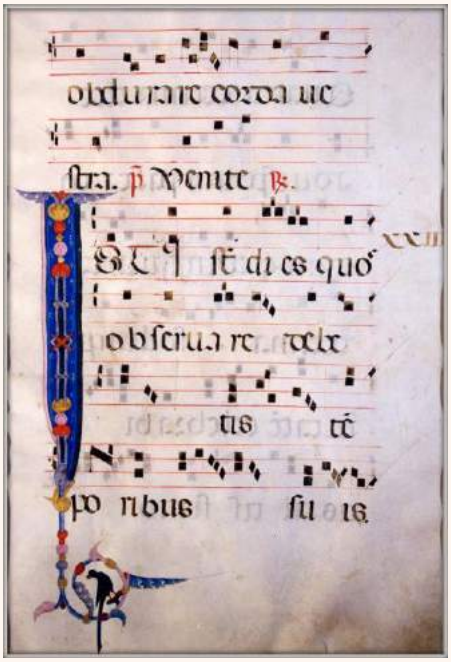
9世紀になると、グレゴリオ聖歌が広まり、音を正確に伝える手段として「ネウマ」と呼ばれる線状の符号が創出され、聖歌が楽譜として表されるようになりました。10～11世紀にはネウマに横線（譜線）を添えて音程を明確にする試みがなされ、更に13世紀に入ると四角の音符ネウマと四線譜が付されて一般化しました。それらは、鋲釘（びょうくぎ）型ネウマを使い続けるドイツを除いて、全ヨーロッパで使用されるようになりました。

しかし、リズムを表さないネウマ譜は不便となり、13世紀後半になると音の長短を音符の形状で表す定量記譜法が始まりました。その後、15世紀頃から用いられた鍵盤楽器用の記譜法が、今日の最も国際的かつ普遍的な譜法に発展していったのです。

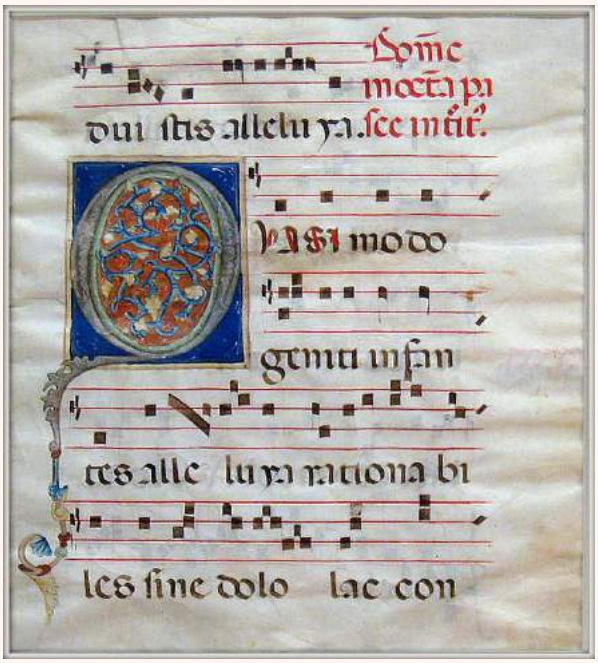
（譜線無しネウマ） 年代、制作国不明



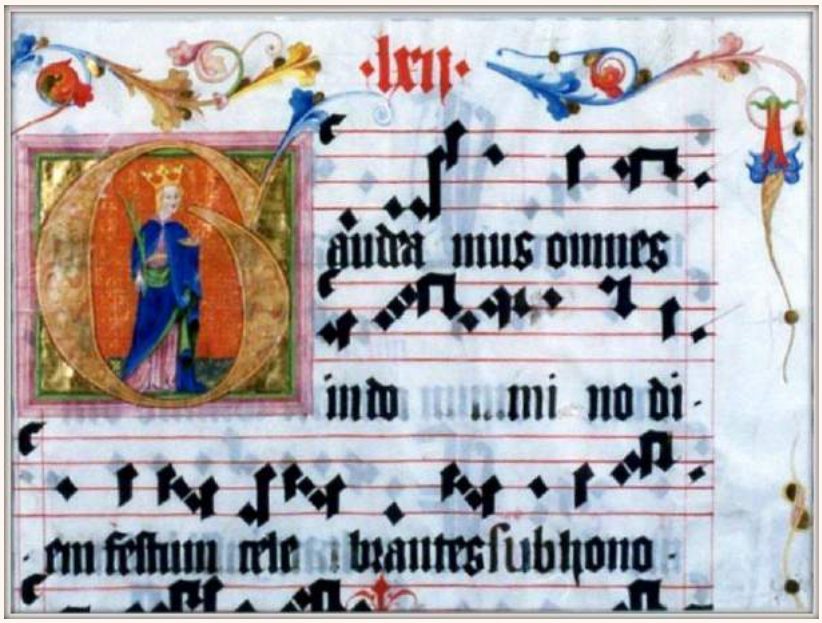
「昇階誦」 13世紀 イタリア



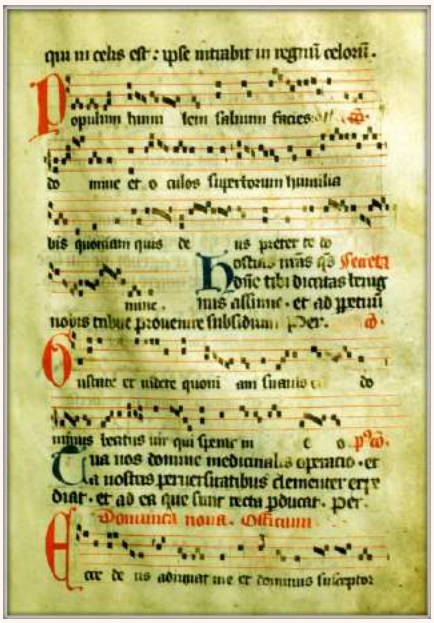
「交唱歌」 13世紀 イタリア



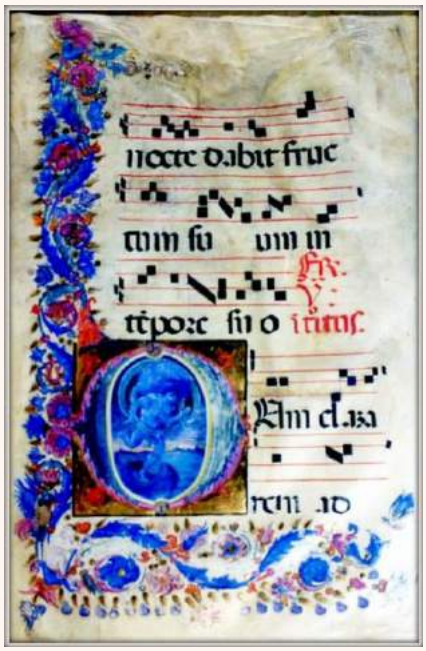
「昇階誦」 13～14世紀 イタリア



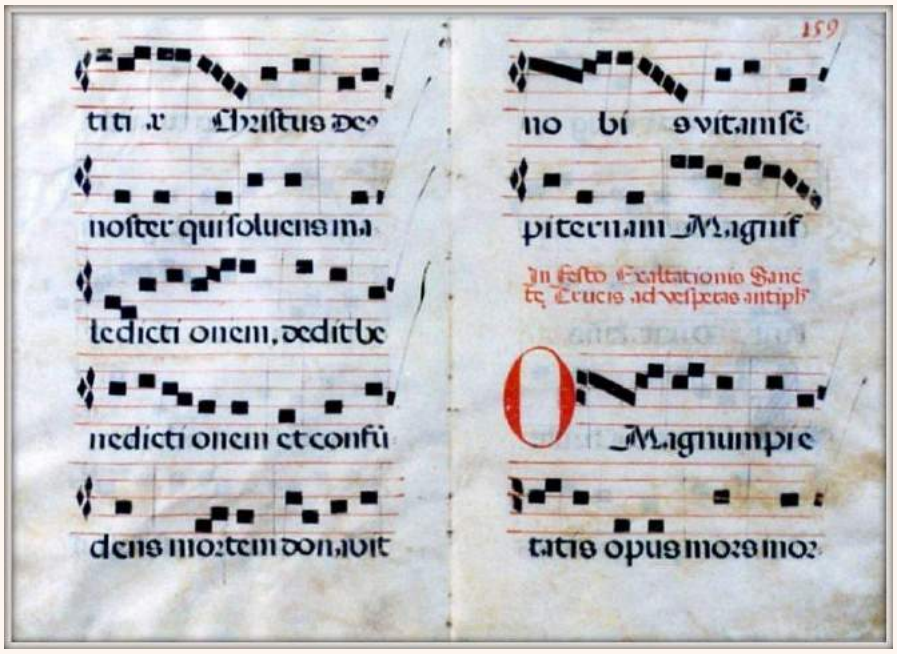
「昇階誦」 15世紀 ドイツ



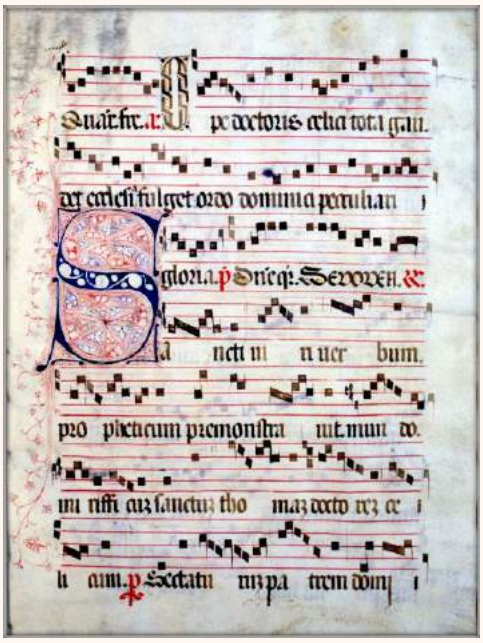
「ミサ典書」15世紀 イタリア



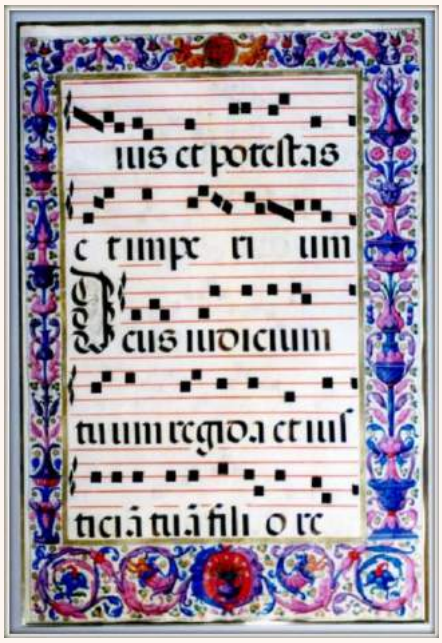
「昇階誦」 15世紀 イタリア



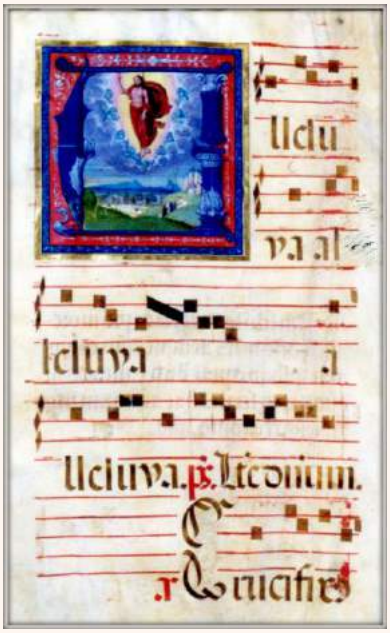
「交唱歌」 15～16世紀 フランス



「昇階誦」 16世紀 イタリア



「聖歌集」16世紀 スペイン



「聖歌集」 16世紀 スペイン

≪用　語　解　説≫

グレゴリオ聖歌
中世以降、ローマ・カトリック教会で歌いつがれてきた単旋律聖歌の一般的な総称で現在千数百曲確認されている。教皇グレゴリウス一世（在位 540 年頃～604 年）が地域ごとに歌われていた聖歌を集成したことに因み、この名前がついた。

ミサ典書
カトリック教会で行われる祭儀のなかでもっとも重要な祭儀のミサ聖祭に用いられる祈祷書(きとうしょ)。そのなかには典礼法規、聖歌、朗読、典礼文を含んでいる。

交唱歌（Antiphon）
ローマ・カトリックの教会暦（教会特有の暦で、キリストの主要な事跡を中心にしている）を通して毎日の聖務日課（毎日一定の時刻に一定の形式で捧げされる祈祷）の中で歌われる歌で、礼拝式の際に、詩篇の（前）後に左右の聖歌隊が交互に歌う。入祭文（入祭文の項参照）を構成する三部のうちの一つ。

昇階誦（Gradual：1962 年の第二ヴァチカン公会議以降は、「答唱詩篇」と呼ばれる。）
ローマ・カトリックの教会暦を通してミサ（キリストの死と復活を記念する、ローマ・カトリック教会で最も大事な典礼儀式）中で歌われる歌。聖歌集に収められている。
使徒書簡と福音書の朗読の間に司祭と聖歌隊が歌う。福音書読台に昇る時に歌われたのでこの名前がある。

トレーサリー
ゴシック式建築の窓・衝立・羽目仕切り等に施す装飾的はざまを意味するが、ここではそれに類する模様を指す。

入祭文（Introitus）
ローマ・カトリックのミサ用語。主にその日のミサの趣旨を示す。交唱、詩篇唱（歌にした聖書の詩篇）、栄唱（神を賛美する歌）の三部から成り立っている。

ネウマ
グレゴリオ聖歌等の記譜に用いられた中世の音符。旋律の動きや奏法等を図式的に記号化したもので、時代や地域により各種あり、現在の音符の原型。

フォリオ
写本（もしくは初期印刷本）に用いられた羊皮紙もしくは紙一葉を指す。伝統的に表面にのみ番号をつけてあり、フォリオ 10（表）、フォリオ 10（裏）という表現をする。

令和元年9月17日（火）～12月21日（土）

午前9時～午後5時　（休館　毎日曜・祝日と学事日程による休業日）

聖徳大学川並弘昭記念図書館8階　聖徳博物館

JR常磐線、新京成線松戸駅下車　東口より徒歩5分

（学内に駐車場はありません。車での来場はご遠慮ください。）